



山法師

寒河江中部小学校

学校だより

令和5年11月20日

校長 那須 隆秀

カラー版はこちら



感動の中部小祭 伝えた「成長」と「感謝」

寒河江中部小学校金管バンドで華やかに幕開け

中部小祭のオープニングを彩った金管バンドは、11月3日の東北大会で、見事金賞となり、**11年連続で全国の舞台に進むことになっています。**素晴らしいですね。

全国大会は、12月9日(土)さいたまスーパーアリーナで開催されます。金管バンドの皆さん、ぜひ全国大会でも頑張ってください。中部小のみんなが応援しています。



1年生 劇「おばけじぞう」



1年生の目標は、広い体育館の後ろで見ている人まで声を届けることでした。練習では、なかなか大きい声が出ない場面もありましたが、本番では全員が、「見ている人に伝わるように大きな声を出す」という目標を達成しました。自分たちで考えた動きもユニークでかわいくて、とても良かったです。長い劇を自分たちの力で最後までできたこと、素晴らしい「成長」です。

2年生 踊り「花笠音頭」「ダンスホール」

2年生の「やっしょう、まかしよ、中部小それっ」の掛け声で会場が大いに盛り上がりました。花笠が終ったかと思うと、体育館の壁際にハッピーを素早く丁寧にたたんで、次の踊りの場所でスタンバイする動作の滑らかさ、待つ姿勢の美しさ。小学校に入学して1年すごして、こんなに成長しました。そして始まるリズム感あふれるダンス。『いつだって大丈夫!』と、見ている人を元気にしてくれるダンスでした。



3 年生 劇「吉四六さんの人助け」



3年生の劇の面白さは、吉四六さんがとんちで困っている人を助けるというストーリーにあります。ストーリーが見ている人に伝わるようにするには、セリフの言い回しやナレーションで、話の筋が「わかる」ようにすることがとても重要です。3年生の劇はそれができていたところが素晴らしいと思います。3年生とは思えないレベルの高い劇でした。

4 年生 音楽「世界に一つだけの花」「10才のありがとう」

「生まれて10年たちました」という歌い出しで始まる合唱「10才のありがとう」10年たったんだね。いろんなことあっただろうな、と思いながら一人一人の顔を見ていると泣けてきました。歌っている姿、立っている姿、全ての場面に成長が表れていて、そしてご家族への感謝の気持ちも確かに伝わったと思います。



5 年生 劇「夢から醒めた夢 2023」



5年生の劇のクオリティに驚いたのは私だけではないはず。講評で「一人一人がミュージカルスターのようだった。」と評しましたが、今でもその思いはますます強くなっています。練習の時から、自分たちで演技のアドバイスをし合うなど、「自分から」「自分たちで」という気持ちが出ていました。寒河江中部小の歴史に残るミュージカル劇でした。

6 年生 「110人がつくる中部小ソーラン」

「こういう6年生になりたい。」1年生から5年生、みんなが心の中で思いました。本当にカッコいい6年生のソーランでした。最初の「ハッ」が体育館に響いた時、見ていた500人の心が動いたように感じました。寒河江中部小6年生の「人を感動させる力」は、本物であると確信しました。そして伝統のバトンは5年生に確かに渡されました。

